

避難指示解除の富岡町 夜の森地区 桜のライトアップ始まる



福島県富岡町で町のシンボルになっている夜の森地区の桜並木のライトアップが、1日夜から始まりました。夜の森地区では1日避難指示が解除され、夜桜を楽しむ人でにぎわいました。

東京電力福島第一原子力発電所の事故で、富岡町は町の面積の1割余りが立ち入りが厳しく制限される帰還困難区域に指定され、夜の森地区と大菅地区のあわせて3・9平方キロで1日午前9時に避難指示が解除されました。

町のシンボルになっている夜の森地区の桜並木は、例年より早い3月23日に開花し、5日後の28日に満開が発表されました。

そして、1日午後6時に夜桜を楽しむためのライトアップが始まり点灯式で山本育男町長などが点灯ボタンを押すと、夕暮れの中、満開の桜が華やかに浮かび上がりました。

隣の榎葉町から訪れた50代の夫婦は「震災の前には子どもの塾の送り迎えで通り、夜桜を見ていましたが、思い出深い桜並木をまた見ることができて感激しています」と話していました。

東北大災害研を継承、深化させる 3代目の栗山新所長が抱負



▲就任会見で抱負を述べる栗山所長＝6日午後1時55分ごろ、仙台市青葉区の東北大青葉山キャンパス

栗山氏は災害公衆衛生学が専門。震災後に子どもや妊婦の健康調査に携わり、自治体へ改善を提言してきた。「予防で病気の発生を抑える」公衆衛生の考え方は防災に応用できる。備えの知識はある。

東日本大震災を契機に発足した2012年からの歩みについて「被災地の街づくり、健康増進など復興に資する活動ができた」と総括。「災害公営住宅の入居者の高齢化など時間経過に伴って顕在化する問題にも対応すること述べた。

防災に無関心な層に対し、広報や教育を通して行動変容を促す「防災コミュニケーションシナジー」を確立させる考えも示した。

「被災者の現状を可能な限り改善する努力を継続するほか、防災意識の向上と行動変容を喚起したい。若い語り部たちがなぜ、思い出したいくもない被災体験を繰り返して伝えるのか。必ず起こる災害に備えてほしいとの思いからだ」

…取り組むべき課題は。

「災害研の所長は重責で、身の引き締まる思いだ。1人で全てを背負うことはせず、不足している部分は各分野の先生方の助けを得ながら進めていく」

…就任しての思いは。

「防災研の所長は重責で、身の引き締まる思いだ。1人で全てを背負うことはせず、不足している部分は各分野の先生方の助けを得ながら進めていく」

…備えを促すにはどのような方策が必要か。

「意識改革と環境整備が欠かせない。公衆衛生に例えると、禁煙は自治体による健康教育やたばこ税の増税が効果的だった。防災では、取り組んだ団体が減税などのメリットを受けられれば行動変容につながるだろう。建物の耐震化率や家具の固定率などの指標化も重要だ」

…震災から12年が経過し、風化も大きな課題だ。

「人の記憶には限界があり、風化は避けられない。教育などあらゆるチャンネルを通じて(記憶の継承や防災を)文化として醸成、定着させなければならぬ。50年、100年先を見据えた政策が必要になる」

we support!
RQ
災害教育センター

MONTHLY

「東北に黒糖をばらそう!大作戦しんぶん」改め
復興支援『すけさきた』
かめらばと
しんぶん

「すけさきた」とは宮城県登米市あたりの言葉で「ボランティアに来たよ」という意味である。

APRIL
11
2023

